

# 平成24年度事業報告

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

平成24年度は、昨年7月に第11回ラムサール条約締約国会議が開催され「渡良瀬遊水地」がラムサール条約の登録湿地になりました。当協会もその実現に向けて、地元団体等と共に活動してきた成果と言えます。また、昨年度に引き続き「生物多様性条約第10回締約国会議」で採択された「愛知目標」達成に向けて、国・自治体、企業等への政策提言や協働活動を、会員及び各支部と共に取り組みました。特に、荒川流域を主とした「コウノトリ・トキの野生復帰をテーマとするエコロジカルネットワーク形成プロジェクト」について、その事業化に向けた活動を進めました。

埼玉県より指定管理者として委託を受けている「埼玉県自然学習センター及び北本自然観察公園」と「荒川大麻生公園」については、本県を代表する自然環境の拠点であり、環境教育・学習の実践の場であるとの認識のもと、多くのボランティアの協力を得て、きめ細やかな管理運営を心がけました。なお、「埼玉県自然学習センター及び北本自然観察公園」は平成24年に開設20周年を迎え、ブータン王立自然保護協会の代表を招聘して記念フォーラムを開催し、好評を博しました。

さらに、当協会の活動をより一層発展させる為に、公益財団法人への移行認定申請書を埼玉県知事に提出し、平成25年3月25日に認定を受け、平成25年4月1日より公益財団法人としてスタートすることとなりました。

## 1. 保護事業

本年度は、荒川流域をはじめとする県内平野部の水辺環境の保全・再生や、地域振興・経済活性化にも寄与する「コウノトリ・トキの野生復帰をテーマとしたエコロジカル・ネットワークの形成」について、昨年度の調査検討を活かして、国や県・市町、NPO等と連携し、事業化に向けた取り組みを進め、鴻巣市・北本市では市による基本構想が検討され、特に北本市においては「北本市コウノトリの舞う魅力的な地域づくり協議会」がスタートしました。また、荒川中流の鴻巣市・北本市・桶川市・吉見町・川島町の3市2町を対象に荒川上流河川事務所が「荒川流域コウノトリ地域づくり連絡会」を設置し、今年度実施された2回の準備会について積極的な支援を行いました。健全な自然生態系の機能を保全・再生・創出し、自然と共存した県土づくりの実現を図るために、会員、各支部及び関係各機関の協力によって県内各地のビオトープとそのネットワークの事業化推進に取り組みました。秩父山城、荒川・江川流域、飯能・高麗丘陵、狭山丘陵、くぬぎ山、三富新田、見沼たんぼをはじめとする各地域においては、良好な自然生態系が現存し、ビオトープ・ネットワークの骨格をなす重要な地域であるにも関わらず自然環境の悪化・減少が進行しています。このような地域における自然環境の保全・再生と環境教育の場としての保全整備に引き続き取り組みました。特にビオトープ・ネットワークの動脈とも言える荒川、入間川、利根川、江戸川、中川、綾瀬川等をはじめとする河川の再自然化や、大型道路事業に関してはネットワーク化実現の観点から積極的に関与し、道路沿線部の自然創出に取り組みました。狭山丘陵、飯能、高麗丘陵、加治丘陵、見沼たんぼ、武蔵野平地林地域等の自然生態系の保全と再生に関連した事業化が進行している場所についても、関係各機関への積極的な働きかけと協力を行いました。10年来自然再生事業に取り組んでいるくぬぎ山地区については、今年度初めて中核エリアの「特別緑地保全地区」の指定が成功し、平地林保全の見通しが得られました。また、水のトラスト6号地の取得を始め、鳩山町の雑木林寄付の受け入れ、ACジャパンのナショナルトラスト活動支援CMへの協力等、各種トラスト事業に取り組みました。その他、

地域の個別保護問題と共に、市町村ごとの環境に関する各種行政計画の策定・関与にも力を入れて取り組むと共に、各地域における自然と共存するまちづくりの問題解決に向け積極的に取り組みました。

## 2. 研究事業

本年度も、当協会の保護事業推進のために必要な科学的根拠を得ることを目的に、会員等の協力を得て自然生態系に関する各種基礎調査や希少動植物等の生息状況調査等を実施し、そのデータのとりまとめと、評価についての研究を進めました。特に「埼玉県エコロジカル・ネットワーク計画」の推進に向けた基礎的情報の収集・整理と、レッドデータブックの改訂に向けた希少動植物の分布情報、野生生物の保護と開発との調整や自然再生を図るための「生息環境評価手続き (HEP)」に関する調査・研究等に力を入れて取り組みました。

## 3. 普及広報教育事業

本年度は、「埼玉県自然学習センター及び北本自然観察公園」と「荒川大麻生公園」について、管理運営事業のさらなる充実を図りました。「埼玉県自然学習センター及び北本自然観察公園」については開設 20 周年を記念して、7 月～8 月までブータンの特別企画展や記念フォーラム等を実施し、好評を博しました。本年度の「埼玉県自然学習センター」の入館者は、目標数を大きく上回り 9 万人を超えることができました。そのほか、自然生態系保護思想の普及啓発と持続可能な地域づくりを担う人材の育成を目指し、「最新環境カレッジ」の実施や、武蔵野銀行の行員の方向けの環境講座「ぶぎん環境カレッジ」の開催、武州ガス株式会社と荒川上流河川事務所と当協会を主体とする「武州・入間川プロジェクト」の継続、芝川第一調節池環境管理パートナーズの事務局運営など県内企業等との連携をもとに積極的に取り組みました。さらに、子どもたちが学校生活において身近な自然の大切さに気づくこと、野生動植物とふれあう機会をもつことを目的に、第 28 回「私たちの自然を守ろうコンクール」や学校ビオトープの整備に関する技術支援及び各種イベントの開催などに取り組みました。

## 4. 編集出版事業

自然生態系保護思想の普及啓発のため、自然及び自然生態系保護の情報を盛り込んだ会報誌を発行するほか、自然に関する各種パンフレットの作成支援を行いました。